

■ 書 評 ■

新てんかんテキスト —— てんかんと向き合うための本

静岡てんかん・神経医療センター

井上有史・池田 仁●編集

京都大学大学院医学研究科神経内科 池田昭夫



このたび南江堂から『新てんかんテキスト——てんかんと向き合うための本』が発刊されました。これは『てんかんテキスト——理解と対処のための100問100答』として、大変好評であったテキストの改訂新版です。旧版は1991年に発刊され、1999年に改訂2版が出版されています。

旧版シリーズは、わが国において、1980年代以来現在に至るまで、てんかんの内科・外科治療を含めた包括的てんかん診療の、名実ともにメッカである旧国立療養所静岡東病院（現 静岡てんかん・神経医療センター）が中心となり、清野昌一先生と八木和一先生の編集でスタッフの方々によって作成されたものでした。てんかん診療では、てんかんの診断・治療の単に学問的な知識だけではなく、日常生活の問題と対処、社会生活上のさまざまな問題点や社会制度の活用のための知識と経験なども必要で、特に後者は大変重要です。このような患者さんが抱える問題は種々多様であるにもかかわらず、後者に関するまとまった情報あるいは指南書的なものは、本書以外には、まったくといってよいほどありませんでした。本テキストの中では、日頃のプロフェッショナルとしての経験と学問的な知識を、実情に沿うようにわかりやすく解説されていました。もちろんこれは患者さんの抱く疑問に対して答える形で作成されていたものの、てんかんの初学者には、大変役に立つものでした。評者も本書あるいはその内容を患者さんに

紹介するだけではなく、自分自身の浅学を補うべく初版のときから購入して、利用させてもらってきた1人です。

その旧版の流れを汲んで、静岡てんかん・神経医療センターの井上有史院長と池田 仁先生が中心となって新版を編集され、新たな装いで世に出たのは大変喜ばしく感じます。内容を拝見しますと、今回はQ and Aにこだわらずにテーマについてわかりやすく解説され、その中でも重要な内容は、旧版の伝統を活かしてQ and A形式で、強調されています。

旧版に比較して、新たに導入されている内容としては、①発作以外の病気・症状として、突然死、高次脳機能障害、精神科的症状、性格と行動など、②治療に関しては、ジェネリック・漢方薬・サプリメントの問題、ケトン食療法の問題などが新たに導入されています。「ジェネリックは、ブランド薬とまったく同じ」と巷で言われていることを、ていねいに正しく解説されていて（＝ブランド医薬品の80～120%相当の効果であれば、ジェネリックとして承認されている）、ジェネリックへ、あるいはジェネリック薬品間で無知識に変更することによって、血中濃度が40%近く変わる可能性なども、わかりやすく説明されています。また上述したように、本書の旧版以来の特徴である、医療費、保育・教育問題、就労に関してのさまざまなアドバイスの情報、一般生活上で考えるさまざまな状況での問題点（病名告知、外出時の注意点、スポーツ時、生命保険の加

入時、海外旅行、結婚、妊娠、出産、生活援助の制度など）に対して、わかりやすく説明されています。

本書は、その前書きに記されていますように、医療関係者、てんかんケアに関わる人、てんかんのある人とその家族、てんかんについて知りたい人のために作成されています。外来で常備して患者さんからの質問に対して本書の内容を紹介するなど、日常診療に明日からでも役に立つだけではなく、てんかん初学者のみならず、特に評者同様神経内科でてんかん診療を行う状況の医師や、メディカルの方々にもぜひ一度本書を手にとりたてきますと、てんかんの「診療とケア」に関わる部分に、大変役立つものと思います。

初版以来の本書の目的がさらに充実したことを嬉しく思うとともに、今後も時代の変化に即して、本書がさらに将来も継続して発展し、日本のてんかん診療がますます明るいものになっていくことを願って止みません。最後に、本書に豊富に挿入されているイラストは、「ほっこり」（ほっとする、癒される）とした感じで、少なからず固い内容を、「柔らかな感じになった気持ちにさせて」くれます。一度ご覧ください。

B 5, 頁 184, 2 色刷, 2012 年
定価 3,150 円
(本体 3,000 円 + 税 5 %)
[ISBN978-4-524-26483-4]

南江堂